

## 幼児教育研修（人権 第4回）

受講者数571名

配信期間 令和5年2月1日（水）～2月28日（火） オンデマンド研修

講師 東京立正短期大学 現代コミュニケーション学科 幼児教育専攻 准教授 鈴木 健史 氏

## 【内 容】

人権を守ることは保育の根幹です。人格形成の基礎を培う乳幼児期の教育・保育を担う保育者は、自らの人権意識・人権感覚を振り返り、向上させていくことが重要です。子どもの人権を大切にする保育とはどういうことなのかを考え、乳幼児期の人権についての学びを深めます。

## 【受講者の感想】

## \* 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

- ・最終的に目指すところが同じだとしても、保育者が教えてしまうのか、子どもたちが考えて取り組むかでは異なり、たくさん経験・失敗したりすることからの学びや取り組んできた過程を大切にできるよう、一人一人にあった援助をしながら子ども主体の保育を実践していきたい。
- ・行事への取り組みの際、「今まではこうだった」という固執した考えにとらわれず、もっと柔軟な考えや見方をしていこうと思う。自分の今までの経験がよい時もあるが、時には足かせになりうることも心に留めておく。
- ・羽根つき、鉄棒、なわとびなど、できるようになるまでの過程で、一生懸命やろうとする気持ち、できなくて悔しい気持ちに寄り添い、励まして多様な経験ができる環境を整えていきたい。
- ・性や発達の多様性を知り男らしさ、女らしさを押し付けずその子の個性を受け入れることの大切さが分かった。男の子、女の子ではなく個人として関わり自分の価値観をおしつけないようにしていく。
- ・頭を撫でたり、触れられたりすることが心地良いと感じない子どももいる。大人のすることだから受け入れなければいけないと我慢している子どもがいるかもしれないと認識しながら関わっていく。
- ・保育現場だと子どもの足並みを揃えて活動に取り組みたい時もあるが、保育者が手を出してしまうのではなく、見守ったり声掛けしてフォローするなどして、時間をかけてでも自分で取り組めるようにしていきたい。
- ・1歳児の担任ということもあり、トラブルが起きた結果だけを見てしまうこともあった。子どもの姿は点ではなく線で捉えること、過程が大事であることを学び、改めて生活面やトラブル時の関わり方を見直していきたい。